

音楽 学習指導案

日 時：平成18年11月9日(木) 5・6校時  
 クラス：3年選択者(5名)  
 久慈東高等学校 教諭 相沢 雅弘

1 題材名

コードネームで伴奏をしよう

2 題材の目標

- (1) コードネームの仕組みを理解し、正しい和音で演奏できる。
- (2) 旋律線とコードの結びつきを知覚し、これらが生み出す美しさを感じ取る。
- (3) 旋律を生かした伴奏型を自ら考え伴奏する技能を身につける。

3 教材

「Let it be」 作曲：J.Lennon P.MacCartony

「Tomorrow」 作曲：岡本真夜 (教出：Tutti 2)

4 題材について

授業選択者が5名と少ないことと、楽器経験者が多かったことから、年度初めより器楽を中心に授業を進めてきた。教科書以外のポピュラー音楽を希望する生徒もいたことから、ピアノ譜が無くともコードネームを頼りに演奏できることを目標に設定した。

本時の教材は、耳にする機会の多い曲であり、循環コードを使用していることとベースランニングに特徴があることから、生徒が興味をもって取り組めると思い取り上げた。

5 題材の評価規準

	観点1 関心・意欲・態度	観点2 芸術的感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
題材 の 評 価 規 準	和音や音楽の組み立て方に関心を持ち、それらを生かして意欲的に創作をしている。	旋律と和音の結びつきを知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取って創作を工夫している。	事故のイメージを持ち、旋律線を生かした創作をする技能を身につけている。
学 習 活 動 に お け る 具 体 的 評 価 規 準	コードに関心を持ち、和音の構成を理解しようとしている。  互いに意見を出し合いながら、積極的に伴奏作りに取り組んでいる。	旋律の流れを感じ取り、和音の配置を工夫している。  音楽の仕組みを理解し、バランスよく響くように工夫している。	旋律に合ったコードを選択し、低音の動きを考えながら伴奏を創作する。  曲全体の構成を考えて伴奏のリズム型を工夫している。

6 指導と評価の規準（8時間）

時間	学習活動	具体的評価規準との関係	評価方法など
1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>コードネームの成り立ちを知りコードを呼べるようにする。</li> <li>コードと和音との結びつきを知り、楽譜で書き記す。</li> <li>楽譜で書き表したコードを鍵盤で演奏する。</li> </ul>	観点1 -  観点1 -  観点2 -	学習プリント  観察  演奏の確認
3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の確認をする。</li> <li>「風になりたい」の冒頭のメロディーを例にとり、M7とm7の和音構成を分析する。</li> <li>コードを見ながらリズム形の無い伴奏を創作する。</li> </ul>	観点1 -  観点1 - 観点2 - 観点3 -	観察  セブンスコードの種類を説明し、長3度と短3度の積み重ねでできていることの確認。  2グループに別れ、それぞれの意見を出し合いながら1つの作品を完成させる。
5 6  本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の確認</li> <li>「Let it be」の冒頭の旋律とコードを基に、伴奏を創作する。</li> <li>「Tomorrow」の冒頭の旋律を基に、伴奏を創作する。</li> <li>作品演奏発表</li> </ul>	観点1 -  観点1 - 観点2 - 観点3 -  観点1 - 観点2 - 観点3 -	学習プリント  グループに別れ、作品を完成させる。  グループ活動
7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の確認</li> <li>各グループで伴奏を作りたい曲を持ち寄り、1曲を連弾で演奏する。</li> </ul>	観点1 - 観点2 - 観点3 - 観点3 -	観察  グループ活動  自己評価カード

7 指導と評価の展開

(1) 本時の目標

旋律やコード進行の特徴を知覚し、それを生かし伴奏を工夫する。

(2) 本時の具体的評価規準と生徒の学習状況

生徒の学習状況 具体的評価規準	B おおむね満足できる	A 十分に満足できる
観点1 - コードに関心を持ち、和音の構成を理解しようとしている。	学習プリントに取り組み、いくつかのコードについて音程の違いを認識し、音符で表すことができる。	学習プリントに積極的に取り組み、M,m のコードの転回形やベース音の変化を楽譜上でも操作できる。
観点1 - 互いに意見を出し合いながら積極的に伴奏作りに取り組んでいる。	グループの中で自分の役割を果たし、協力しあいながら取り組んでいる。	グループをまとめ、自ら意見を出し、他の意見も取り入れながら積極的に活動に取り組んでいる。
観点2 - 旋律の流れを感じ取り、和音の配置を工夫している。	いくつかの和音の転回形を考え、旋律に合うものを工夫している。	旋律と右手和音のトップの音の響きを考慮しながら、演奏しやすい和音の配置を工夫している。
観点2 - 音楽の仕組みを理解しバランスよく響くように工夫している。	カノン進行の和音の規則性を感じ取り、右手の和音を工夫している。	カノン進行の和音の規則性と旋律の特徴を感じ取り、低音が和音の第3音になった場合の右手の和音を工夫している。
観点3 - 旋律に合ったコードを選択し、低音の動きを考えながら伴奏を創作する。	コードネームを正しく理解し、鍵盤での伴奏符を1コード1和音で創作している。	ベース音と和音の関係を十分に理解し、アルペジオ等での伴奏も創作している。

努力を要する生徒(C)への支援の手立て

観点1 -	鍵盤図を用いて音程の違いに気づかせる。
観点1 -	楽譜に書き写す等の作業を提案する。
観点2 -	転回形を示し、右手の音の移動を最小限にする組み合わせを考えさせる。
観点2 -	同じコード進行を用いている他の曲を例に出し、旋律と右手の和音がきれいに響く組み合わせに気づかせる。
観点3 -	転回形を使うと演奏が容易になることに気づかせる。